

20m070発表記録

授業をデザインすること

42:22

制御を要求

退出

20mReportF (3).docx - Word

ファイルホーム挿入デザインレイアウト参照資料差し込み文書校閲表示ヘルプ実行したい作業を入力してください共有

1.411.21.411.61.81.101.121.141.161.181.201.221.241.261.281.301.321.341.361.381.401.421.441.461.481.501.521.541

2)特別支援の教員との連携を視野に入れる。

3)日本語を話せない生徒への対処として英語の習得を行う

(3)→その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●授業のマニュアルとして「深い学び」東洋館出版を挙げる。この書籍にはより生徒に深くそして充実した思考活動を行わせるための授業方法や授業に対する考え方が著者の経験談を踏まえ述べてある。

ポイント 1)著者が授業を行っていた学校は教育大学の付属校であり生徒の学力平均が公立の学校と比べ高い傾向にある

2)上記学力差よりその付属校で効果の出た授業法が他の公立の学校で効果を示すとは限らない

3)例として挙げられた学校はICTなどの設備面で公立の学校と比べ明らかな差がある

4)学校によって生徒、環境などの条件が千差万別であり、この授業法が正しいと言い切れるものを作ること

は困難である。

(4)→自分の意見

全体の要点●クラスごとに生徒の性質や環境が異なるため教師用指導書や授業マニュアルが参考にならない場面が多々あると思われる。そのため授業を組み立てる教員はクラスや生徒の状態を観察し適切な進度、そして生徒が取り組みやすいレベル設定を心掛け、また授業中であっても生徒の反応次第で指導内容に変化を加えられるような柔軟な立ち回りが必要である。

ポイント 1)クラス、生徒の状態は様々

2)クラス、生徒の観察が必要

3)生徒の反応に気を配る

①→数式は、 $y=ax^2+bx+c$ でも、 $y=ax^2+bx+c$ でも、よい。②タイトル・ファイル名・メールタイトルの不備・項目・要約・箇条書き(3～5項目)の不備・不足・超過、空白8行以上、(1)(2)(3)の出典記述もれ、等は減点。③ファイル名は、「教方 m 第 1 回予習「テーマ」(2 班 614001 名前).docx」

1/2 ページ 1165 文字 英語 (米国) 100%

+8

船

鮎

野

山

橋

河

北

各班ワークシート複数資料用 (まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (授業をデザインするという)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・ クラスごとに生徒の性質や環境が異なるため
- ・ 授業マニュアルが参考にならない場面が多々ある
- ・ よって教員はクラス・生徒の状態を観察し適切な進捗、レベルを心掛け柔軟に対応して、指導内容に変化を加えられるような柔軟な立ち回りが必要である

■肯定的 web ()

まとめ ()

- ・ 授業マニュアル、指南書は書店などで多く取り扱われており気軽に手に入れることができる

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

- 過去最高の盛り上がりだったように感じます。
内容とは直接関係ないしろ対面で向き合って議論を行うことはオンラインにはないやりやすさを感じました。

■ 5 段階班の自己評価 (5)

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・ 私が所持する 2 冊の指南書において、授業実験が行われた学校は基本教育学部の付属校であり標本とするにはあまりに生徒の学力レベルが高い学校である。そのためおそらく参考にならない点が多々みられた。

■班としての要約

まとめ ()

- ・ 授業をデザインすることにおいて重要となるのは対象となるクラスの生徒の実態に基づいて何をどう教えるかを決定することである。そして教材の持っている性質、教師の願っているもの、子どもたちの思考・感じ方、考え方の 3 つが成り立つよう心掛ける

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・ 授業デザイン
- ・ クラスの実態
- ・ 生徒の資質
- ・ レスポンス
- ・ 授業マニュアル
- ・ 指導内容
- ・ 障がい者
- ・ 帰国子女
- ・ 教員研修書
- ・ 授業進度

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

- 質問に返答するとき自分が話している間に質問内容が飛んでしまったため返答を行うときは行き当たりばったりではなく解答を先に浮かべてからそこで導くように話すべきと感じた。

教科内容と子どもの学び

[illegible]

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教科内容と子どもの学び)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (階段型カリキュラムと登山型カリキュラムの統合)

- ・これから「知識伝達型」ではなく、
- ・「知識創造型」と学びが必要であると
言われている。
- ・「階段型」カリキュラム、「登山型」カリキュラム
それぞれどちらか「どこ」では課題・問題
があり、「階段型」カリキュラム、「登山型」カリ
キュラムの統合が望ましい。

■肯定的 web (登山型カリキュラムと階段型カリキュラム)

まとめ (登山型カリキュラムは資質能力を育成する)

- ・登山型カリキュラムは、授業を通して
- ・得る多様な発見をお互いに表現し、
- ・共有することができ、
- ・登山型カリキュラムは、補助的位置に
おいやられているが、今後必要で
資質・能力を育成することにつながる
(表現力、主体的に動く能力など)

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取
り組みについて感じたことをのべよ。

- 現在の知識伝達型 (階段
型カリキュラム) と知識創造型カリキュラム
を統合することと知識を得ながら、
今後必要で資質・能力を育成する
ことができ、

■ 5段階班の自己評価 (4)

■ 否定的 web (登山型カリキュラムと階段型カリキュラム
まとめ (階段型・登山型、両者に課題はある。)

- ・「階段型」カリキュラムは「学び」を画一的に
しまっており、学びを狭い経験に閉ざして
しまうという問題がある。
- ・「登山型」カリキュラムは「学び」を深く学ぶこと
が求められており、それを実現するには、
教師の知識量が「重要」であり、教師の支援
力が「確か」に必要とされている。

■ 班としての要約

まとめ (登山型カリキュラムと階段型カリキュラムの統合)

- ・登山型カリキュラムと階段型カリキュラムを
統合していく必要がある。
- ・登山型カリキュラム、階段型カリキュラムと「どちら
か」だけでは「十分」ではないため、統合すること
で、知識を得ながら必要な資質・能力
を育成していくことができる。

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・登山型カリキュラム 深い学び 表面的
- ・階段型カリキュラム 教師 形式的
- ・知識伝達 統合 この字型
- ・知識創造 資質・能力 表現
- ・対話的 主体的学び 共有

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことを
のべよ。

- 登山型カリキュラム、階段型カリキュラム
どちらも重要であり、どちらか「どこ」では問題
である。

両者を統合して授業を展開していくことで、
今後必要で資質・能力が自然と身につ
いていくと良いと感じた。

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (対話的・協同的な学び)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (学びと勉強の違い)

- ・「学び」と「勉強」は、別の物であり、前者は
- ・子ども自身が主体となって活動することであり、
- ・後者は、大人に子どもを勉強させる活動。

・学校では、「学び」を意識して学習に励み、
教師が一方向的に教えるのではなく、時々
子どもに問いかけ、双方向の学習を
意識する。

■肯定的 web (アクティブラーニング型の授業)

まとめ (学びの一例)

- ・アクティブラーニングとは、みずから課題を見つけ、
- ・それについて教師と生徒がお互いに知識を
- ・伝達し合い、より深い学びにつなげる。

・生徒が他者の意見を聞いた時に
少しでも疑問に感じたことを中心に
最終的な課題と関連づけて取り組む。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取
り組みについて感じたことをのべよ。

■ 中学理科(生物)の体の骨格など、簡単に
観察できないことをデジタル端末を用いて、
行うというのは、非常に理にかなっていると
感じた。デジタル端末を7人7台というのは、
なかなか現実的じゃない。

■ 5段階班の自己評価 (4/5)

■否定的 web (学校も塾も同じ内容を教えるの
まとめ (学び=勉強の考え))

- ・テキストでは「学び」と「勉強」を区別し、
- ・教えるてくまわっているが、それでは塾と学校で
教えていることにはズレが生じる恐れがある。
- ・それをなくすために、なるべく塾では学校でも
同じ内容を教えていくべきである。

■班としての要約

まとめ (話し合いの教師の役割)

- ・対話的・協同的な学びのために生徒同士の
- ・話し合いの場をもち、教師は、手を出さないのは
なく、教師もある程度、話し合いに参加して
大まかな道筋をたててあげることも必要である。

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・学び	・勉強	・一方向的	・双方向
・アクティブラーニング	・知識の伝達	・考えのすり	・アプロプリエーション
・脱習	・概念図	・対話的	・協同的
・	・	・	・
・	・	・	・

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことを
のべよ。

■ 自分の今日調べた内容がこの教育方法論という
授業にも行われていることが多くあり、非常に
理にかなった授業だと改めて感じた。

ICT活用例

01:34:24

制御を要求

退出

519111 20mICTPlan07.docx - Word

表ツール mizusawa yoshihiro

ファイル ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ デザイン レイアウト 何をしますか 共有

あア亜 あア亜 あア亜 あア亜 あア亜
標準 行間詰め 見出し 1 見出し 2 表題

検索 置換 選択 編集

MS 明朝 (本文) 10.5 A A Aa 色 背景色

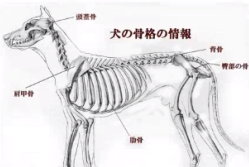
B I U abe X' 文字効果 段落

フォント スタイル

○インターネットでイスの骨格図や体のつくりについてみることができるものを用意しておき、スクリーンに映して説明する。
・このときに他の動物（ネコなど）のものも用意しておき、比較できるようにする。

○イス特有の構造や特徴についての自分の意見をタブレットに記入してもらい、その意見を前面のスクリーンに表示する。
・紙だと全員の意見が共有することが難しかったため、タブレットを用いる。
・グループワークでおこなう。

イメージ図など



保管しておく。

○できるだけ中学生でもわかるような情報のみが書いてある動画、画像を用いる。

○情報を共有する際のアプリに関しては、google classroom等を活用することが良い。

参加者

名前を入力

招待を共有

橋

山

小

松

水

清

船

+10

野

橋

河

山

北

各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ
班のテーマ (生物の構造)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

中学2年生

生物・動物

動物の骨格・体のつくり
(今日はイヌを例におこう)

■目標・内容・指導の概略等

実際には目で見ることは難しいとわかる動物の骨格構造等の観察をおこなう。

また集めた情報について整理するようはつづけることを目標とする。

情報のまとめ (個人)

→ 講義 (全体)

→ 自分の意見 (グループワーク)

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ ICT教育についての発表を聞いたが、現在ICT教育が進められている時代でこのようにICT教育の模擬授業をおこなうこともないと感じました。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 今回の授業のポイントは、個人、講義形式、グループワークの3つの形態の授業を行うことで、それぞれのメリットを合わせた授業を計画している点にある。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

教材は、事前に調べた資料、また教師が提示する動画・画像を用いる。

板書は基本的に行わず、パワーポイント資料を作成し、活用する。また意見を言ってもらった後は、前面のスクリーンに写し、共有する。評価は、最後の自分の意見とめた資料をしっかりと取り組んでいるのかで行う。

■工夫した点、出典等

実際には目で見ることは難しいとわかるものとデジタル媒体を用いることで観察するところまで、理解につなげることを目標とする。

■模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

模擬授業をする機会が最近よくありましたが、パワーポイント等のスライド資料を用いた授業は、ある程度聞く側もプリントが多く、紙資源の削減にもつながるため進めていくべきと感じました。

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 今朝の授業
今日は動画を用いることでICT教育の求められているものやわかった上でおこなうことが、ICT教育でなければ難しいようなことも多くあったため、もっと普及して様々な現場で取り組んでいくべきだと感じました。

(A)

ICT活用例

[illegible]

各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT活用例)

■ 学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

中学・高校での pH の測定実験

(今回は上記を例に挙げたが、実験・観察とあるところ)。

■ 目標・内容・指導の概略等

二段階曲線となる中和滴定の図をよりリアルに表すために「ワイヤレスの測定機器」を導入する。

他の班の結果などを簡単に比較する。

専門家などの意見・考えを見て、知見を広げる。

Word や power point を用いて発表を行う。

→ 本書きよりも図や表の挿入がしやすく、より個性を出したプレゼンを行うことが可能である。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 難しくて、学校の授業で行うのが困難な実験も、ICT を用いると出せることもある。

ex.) 物理の波動を 3D モデルにおよ
生物の細胞の観察
地学の気象の観察

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 実験・観察の代替として、ICT を用いるのではなく、それらをより深く学ぶために、教員の適切な指導の下で用いる

■ 教材・板書計画、評価の観点・規準等

準備物

・ 実験に必要な物。

・ PC、もしくはタブレット (office があるものが良い)

評価の観点

・ 実験時の指導 → 指導が観となる。レポートは必用

・ プレゼン能力 → プレゼン評価。 → どれ位理解しているのかを判断するため

・ 実験結果については深く考えない。

■ 工夫した点、出典等

文部科学省 理科の指導における ICT 活用について

■ 模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

・ しっかりと調べていたので、自信を持って発表することが出来た。

・ 自分が発表するので、しっかりと内容を調べて学ぶことが出来た。

・ 実験を今後に行うために、必要な知見を調べる事が出来た。

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 時間の都合や、予算・設備の都合上、実験を行うのが難しくても、ICT を用いると、幅が広がるのかなと思いました。

発表に「色」があるので、その分考察などの討議・学習により生徒の意欲・競争力が上がり、質の高いものになるのかなと考えています。

確認問題06

01:55:04

制御を要求

👤

💬

👋

⋮

🔇

🔊

📺

📞 退出

519049 清水千尋 確認問題6.pdf - Adobe Acrobat Reader DC

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 署名(S) ウインドウ(W) ヘルプ(H)

ホーム ツール 519049 清水千尋 確... x

教育方法論 m

第6回

確認問題 06

(1) 相対評価から目標に準拠した評価に転換した意義を4つ挙げよ。

- ・ 公共社会と生活するのに必要な学力をすべての子どもたちに身につけさせる。
- ・ 共通の目標に到達することを目指す。
- ・ 学力内容としての「到達目標」を評価規準とする。
- ・ 評価結果をもとに教員の教育活動の反省と子どもたちの学習の検目を通じて学力保障をはかる。

(2) 次の、自己評価の重要性に関する文の、空欄を埋めよ。

.....

.....

(4) 「構成主義的な学習観」「形成的評価の機能」「ルーブリック」のうち1つについて簡潔に説明せよ。

- ・ 構成主義的な学習観とは、学習するとは知識を量的に蓄積することではなく、環境とのなかで相互にしながら自分に都合よく関する意味を再構成して学ぶことである。
- ・ 形成的評価は授業の過程で実施されるものであり、形成的評価の情報はフィードバックされ、授業がねらい通りに展開していないと判断された場合には授業計画の修正や子どもたちの回復指導などが画の修正や子どもたちの回復指導などか

参加者

名前を入力

招待を共有

山

小

松

清

船

中

東

+9

橋

河

山

小

北

各班ワークシート (確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ
各問のポイント

■問1

相対評価から目標に準拠した
評価に転換は意義を知り
ては大切である。

■問2

自己評価をすることでより深く
多層的な理解を得ることができ
る。

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

■生徒にとって必要な評価を
行っていくことで感じた。

2*) 問題全体を通して見て、気づいたことをのべ
よ。

■言評面にもさまざまなものがあり、
言評面によって言評面内容が異なる。

■問3

パフォーマンス評価では子どもたちが
知識と実際の世界との程度うまく
活用させているかを測るものである。

■問4

ルーブリックでは評価尺度とその内容を記述
する指標から成り立っている。

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り
組む時間や、問題内容と発表班との関係などにつ
いて、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■石川確認問題に取り組んでみて自分が
調べた範囲以外にも調べたので
他の事も詳しくした。